

## Ⅲ 指導方法について

### 1. 学内での指導

#### (1) 講義型

##### 1) 実習担当教員による講義（テキスト・教員作成の教材・視聴覚教材等の利用）

事前指導において行われる最も標準的な指導方法である。テキスト（市販の保育実習指導のテキストや保育所保育指針）や実習の手引き（養成校が独自、もしくは県毎の協議会等で作成したもの）、養成教員が作成したオリジナルの教材（プリントやチェックシート）等を利用して、実習に必要な事項の説明を行う。指導内容によっては、視聴覚教材の利用も考えられ、特に実習の実際の様子や、実習先の保育所・施設の理解を深めるためには有効である。

また、講義として説明した内容の理解等の達成度を確認するために、テストの実施やレポート等を作成提出させるという方法も考えられる。

##### 2) 講義型報告会

実習指導の講義の中で簡易な報告会を行うこともできる。正規の保育実習とは別に、実習指導の一環として実施した保育現場における見学実習や体験実習、ボランティア活動などを経験した後に、その内容を振り返りながら記録（レポートや報告書）を作成して発表することにより、保育所や保育士の役割について考えたり、実習先施設の理解や実習内容についての理解を深めたりして、今後の自己課題を明確にしていく。

また、実習を終えた先輩からの話を聞く機会を講義の中で作り、先輩から実習についてのアドバイスを得るという方法もある。

#### (2) イベント型実習報告会

実習終了後に行う実習報告会は、学生にとっては実習を振り返り今後の課題を明確にするという意義があるが、実習前の学生にとっても、こうした報告会に参加することにより、先輩の体験・経験や学びから間接的にではあるが多くのことを学ぶことができる。例えば、実習を意識したり、先輩の様子から自分の実習をイメージしながら聞いて実習に臨む動機づけにつなげたり、心構えを形成することが可能になるだろう。ただし、こうした報告会は、これから実習に臨む学生の実習時期や養成校教員側が実施したい時期と必ずしも一致するわけではないため、実習報告会に参加する前に目的について指導しておくといだろう。

イベント型の実習報告会については、さまざまな形式が考えられるが（詳細は「X 事後指導」参照）、報告を聴くだけでなく、例えば、これから実習に臨む下級生と既に実習を終えた上級生が一同に会し、下級生が上級生の発表を聞いて討論するといったグループワーク型の報告会を行うことで、お互いに学び合うといった方法もある。

#### (3) 記録介在型

実際の学外実習の場面では、実習日誌や指導計画など文章を書く機会が多くあるため、事前指導の段階からできるだけこうした機会を設け、指導していく必要がある。

### 1) チェックシートの作成

学生が実習に備えて行う学習シート（チェックシート）を教員が作成・配布し、記入させる。

実習指導だけでなく、入学から卒業までの学びを記録する「学習ポートフォリオ」や、教育実習指導で作成・記入する「履修カルテ」などを参考に、それらと整合性をもたせるようにして保育実習指導用のチェックシートを作成したり、既存の「学習ポートフォリオ」や「履修カルテ」に保育実習指導の内容を含めて作成するといった方法も考えられる。

また実習直前は、学生自身で行わなければいけないことも多いため、自分の行うべき行動や準備物の確認ができるチェックリストを活用させることも有効である。

### 2) レポート課題の作成

事前指導にかかわる様々な課題をそれぞれレポートとして作成・提出させる。例えば、実習の意義や実習課題を考える、実習先施設について調べる、保育士の専門性について調べ、望ましい保育者像について作文を書く、などといった課題が考えられる。

なお、生活態度が気になる学生については、学生の様子に応じた指導方法をとることもあるだろう。

### 3) 実習報告書の作成

保育現場において実施した見学実習や体験実習、ボランティア活動などについての講義型報告会の資料として、報告書を作成するというような方法が考えられる。

### 4) 実習記録の書き方・指導計画の立案

主に実習記録（日誌）の書き方や指導計画の立案のための基礎的な事項を学内で学習し、それをふまえて保育現場において観察・記録・評価を体験的に学ぶことになる。

学内では各種エピソード・映像・写真などの多様な記録をもとに、観察方法や記録方法についてトレーニングを行い、また学外での見学実習や体験学習の記録を実際に記入・作成することにより、具体的な記録の書き方について指導する。

実習記録や指導計画の作成に Word 等のワープロソフトを使用する際には、学生の習熟度を把握したうえで、手書きの場合と同様に、作図や画像の貼り付け、文字の大きさ等、読みやすさを意識して作成するように指導する。

## （4）グループワーク型

### 1) グループによる情報収集・共有

事前指導の中では、一人一人が課題を持って学習に取り組むことも大切であるが、少人数のグループに分かれて課題に取り組むことで理解が深まることもある。例えば、同じ実習先に配属される学生複数名が協力して実習先施設の社会的役割や保育士の業務、子どもや利用者について調べたりすることで、多くの情報を収集し、共有することができる。

### 2) グループによる話し合い（グループディスカッション・対話）

実習先での生活や、実習そのものについて話し合い（グループディスカッションや対話）をしたり、実習課題について各自の問題意識を発見するように話し合ったりすることで、グループでの学びあいの効果が期待できる。

また、実習直前に不安を抱えている学生への対応として、グループでの話し合いを活用して、不安ながらも一生懸命取り組もうという気持ちがわいてくるように動機づけしてもよいだろう。

### （５）個別面接型

学生の理解度や学修状況、受講態度により、一人一人に面接・面談する必要がある場合には、この方法を用いる。実習課題について自己の課題を明確にしたり、学習が足りていない学生に学習を促したりする機会になる。また、学外での見学実習や体験学習の後に実施する場合は、実習内容・実習における体験の振り返りを通して、保育士の役割や専門性とは何かについて、学生が考えることを助ける機会にもなる。

学生の理解度や学修状況、受講態度、生活態度等において懸念される学生については、個別面接を行い、学生の気づきを促していくようにすることが必要である。

### （６）外部講師参加型

保育所や保育所以外の児童福祉施設の施設長、現職保育士による講話を学生が聴く機会を設けることによって、実習についての理解を深める。

実習に臨むには、目標を明確にすることの必要性や、それぞれの実習施設の特性から学生にどのような学びを期待するか、どのような実習を行っているか、実習生に期待することや遵守事項等、実習受け入れ施設の子どもや職員の立場から話をしていただく。

また、実習指導としてだけではなく、キャリア支援の一環として、礼儀や身なり・挨拶・マナーの分野の専門家等を外部講師として講座を行うことも考えられる。

### （７）キャリア支援型

保育現場での実習自体が、保育士として働くためのインターンシップの意味合いもあるため、実習に臨むことや資格を取得することが自らの人生においてどのような意味をもつのかを考えることにより、学生の職業意識や将来の生活設計に役立つような働きかけをする。また、児童福祉施設長、保育士の講話を聴くことにより、保育の世界への理解が深まる。また、具体的に保育士の仕事をイメージすることにより、保育士になる自分が準備することについて考えたり、保育士という職業を選択した後の自分の生活を想像しやすくなったりする。

容儀・挨拶・マナーの習得についての指導は、実習だけでなく就職活動等のキャリア支援にもつながる。授業の中でロールプレイング（例えば、教員が今の学生の言動や服装を模倣し、保育現場の「実習生」「先生」として適切でない状況を反面教師的に演じて見せる）を行ったり、礼儀や身なり・挨拶・マナーの分野の専門家等を外部講師として講座を行ったりする方法もある。こうしたことは、普段の生活態度や心構えとも大きく関連するため、学生が生活をふり返り、職に就くまでの間に身につけておくべき基礎的な力について気づかせたり、理解させたりするような取り組みが必要である。

また、実習先に提出する実習生調書（個人票）は、就職活動の際の履歴書とほぼ同様な書式が多いため、書き方の指導を行うこともキャリア支援につながっていく。

### チームティーチングによる指導（短期大学）

#### ○チームティーチングのねらいと進め方

実習指導だけでなく、保育内容研究など様々な授業をチームティーチングの形で行っており、専門の違う教員同士が共同で授業の計画や教材開発をすることにより、多角的な広い視野の下、学生に指導ができるようにしている。

実習指導では、2～7名の教員によるチームティーチングを行っており、科目によっては、授業時間毎に担当教員が集まって、1時間以上時間をかけて打ち合わせをし、指導内容の反省や今後の指導内容について話し合うなど、教員同士が緊密に連携して指導に当たっている。この担当教員同士の打合せ時間を確保するために、実習指導の前後は担当教員が空き時間になるように時間割りが組まれている。また、学科全体が組織的に実習を中心としたカリキュラムを組んでおり、専任教員全員が実習に関連した授業のチームティーチングに参加しているため、教員間の連携が必然的になっている。

#### ○チームティーチングの成果

チームティーチングの成果として、様々な視点から物事を捉えることができるため、学生にとって分かりやすい指導内容になったという授業評価が得られている。指導法の一例として事後指導の中で、学生の実習録に記録されている子どもとの関わりの部分を5領域に分解して、それぞれ多角的に見直す学習を行っている。その結果、実習中の子どもの様子と、大学での保育内容研究の授業との関連性、領域間の関連性に対する認識が深まり、実習指導だけでなく、その他の授業についても学生の意欲や理解度が高まるようになり、このことが学生の充実した実習成果につながっている。

### 学生の自主性を重視した実習指導（四年制大学）

#### ○学生の自主性を重視した実習事前指導

1学年20名ということで、少人数、丁寧な指導と思われがちであるが、結構「自主性」を尊重するような部分もあり、むしろそういった点も大事だと考えている。実習においても、学生自身が自ら考え、悩む余地があること、学生が「育つ」時間を持ち、もてることが「四大の」利点かもしれないと思っている。「自主」的にボランティアに行かせ、現場での指導を受けながら、大学でそこについての意味づけをゼミで行う。ゆえに、問題意識は「自主性」の中で自分で見つけ、そこを探究するときには教員が手助けもしている。

#### ○異学年の学生同士の活動による実習指導

実習についてわからないところは、前年に行った先輩に聞くように指示している。

異学年の学生同士を交流させるために、4人一組のグループを作り、月に1度、階段の掲示版に壁面を作らせている（施設実習までに2回は作る）。これは、学生の作業が遅いことへの改善と、友達との関係を作ることなどをねらいに行っている。

また、今年度より、学年の始めに、2～4年生が集まり、同じ誕生月の人と誕生表を作って、教室に貼ることにした。とにかく学生の作業が遅いことや縦のつながりがなくなっていることに風穴をあけるためにやっている。

## 2. 学外での指導

### (1) 実習施設の見学

事前指導の一環として、保育所や児童福祉施設等を実際に見学し、実習先の施設について理解を深めるために行われる。

保育所の見学先としては、養成校の附属や系列の保育所(幼稚園や認定こども園も含めて)が多いが、養成校の近隣の保育所に見学を依頼して実施する場合もある。

施設実習先は様々な種別があるため、全ての種別の施設を見学することは難しいが、可能であれば、児童養護施設と障害児入所施設など複数の種別の施設を見学する機会を設けたい。

見学の時間は、午前中の活動や朝から夕刻まで丸一日の見学の場合もある。見学する際には、養成校単位で学生が集団で見学する場合もあれば、グループや個人で見学をする場合もある。また、養成校の近く(キャンパス内の附属園など)に見学先がある場合は、学生が授業の空き時間等を利用して、短時間の見学を複数回行う場合もある。

見学を行う際には、見学先の保育所・施設についての事前学習を十分に行い、見学の目的(見てくるポイント)を明確にしたうえで(例えば、子ども・利用者の様子、保育者の動き、実習先の環境など)、見学を行い、その内容を記録して、その後の学習に活かせるようにする。

### 実習先保育所・施設の見学(短期大学)

#### ○附属保育園・幼稚園での見学及び観察・参加実習等

短大に附属の保育園・幼稚園があり、保育(教育)実習の事前指導の一環として、両園の見学、観察・参加実習、行事でのボランティア活動を実施している。附属保育園・幼稚園が短大キャンパスの近くでない(車で30分程度)ため、いつでも簡単に訪問できるわけではないが、5~6月に学生全員(もしくは2分割して)での見学、1回に8名程度の学生で、9月及び2月に附属幼稚園の観察・参加実習2日間、12月及び2月に附属保育園の観察・参加実習2日間を実施している。これらの実習においては、2年次の実習と同じ様式の実習の記録を学生に行わせ、記録の書き方の指導も含めて、事後指導を実施している。

また、希望者によるボランティアとして7月夏祭り、10月運動会、12月発表会に学生が参加し、普段の保育と異なる子どもや保育者の様子についても学ぶことができるようにしている。

#### ○複数の種別の施設での見学

施設実習の事前指導の一環として、1年次の6月に児童養護施設、9月に障害児入所施設、2月に障害者支援施設において見学を実施している。見学先の施設の概要について、学内で事前指導・学習を行ったうえで、学生全員(もしくは2分割して)で施設を訪問し、施設についての説明を受け、見学をさせていただいている。見学後は、各自がA4用紙1枚程度の記録を記入し、それに基づいた事後指導(グループによる話し合いと教員による説明)を実施している。

## （２）実習施設でのボランティア

学外での事前指導として、実習先の保育現場に足を運び、実際の保育の様子を見学・観察することは重要な事であり、上述したように、養成校単位で実習先の見学が企画され、実施されている。しかしながら、こうした養成校単位での見学には、時間や内容に制約があることから、さらに保育現場の理解を深めるために、実習先となる保育所・施設でのボランティアを推奨している養成校が多い。

詳細については、巻末の資料編に詳しく記載しているので、そちらを参照のこと。